

NEWS LETTER



京都教育大学

Kyoto University of Education

第23号 (2015. 3.16)

附属教育実践センター機構

Organization of Educational Research and Practice Centers

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

第86回 国立大学教育実践関連センター協議会 報告

第86回国立大学教育実践研究関連センター協議会が2月13日に東京学芸大学で開催されました。部門会議(教育実践・教育部門)では、各大学の特色ある取組として、①広島大学における「学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発」-教育委員会・学校・大学で初任者を支えることを目指して-、②高知大学における「教員養成・研修プログラム開発プロジェクト」、③鳥取大学における「特色ある教員養成方法としての『学び・遊び・つくる』プロジェクト」、④福岡教育大学教職大学院における「年齢構成の急変に対応する新しい教員研修プログラムの開発と教員養成科目の開設」などが紹介されました。

部門会議に先立っては、文部科学省 高等教育局 大学振興課 教員養成企画室長である佐藤勉氏より「教員養成の改善・充実」というテーマで講演が行われました。講演内容のテーマは5つあり(①近年の大学改革の動向について(大学改革実行プラン; これからの大学教育、学制等の在り方など)、②国立大学改革について(今後の国立大学の機能強化に向けて; 初等中等教育を担う教員の質の向上のための機能強化; 運営費交付金の在り方の見直しなど)、③教員養成改革について、④大学院段階の教員養成改革について、⑤初等中等教育等をめぐる動向について)、本学の将来展望と強く関連する内容でした(当日の資料は教育支援センターに保管しています。希望者にはPDFファイルで送信します。是非閲覧して下さい)。特に、③の「教員養成改革について」では、『学び続ける教員を輩出・支援するための大学におけるこれからの取組について』、『教育委員会・学校と大学の連携・協働の在り方について』が強調され、その論点の整理として、NEWS LETTER 第17号で紹介した『教員の養成・採用・研修の改善について~論点整理~』が再度提示されました。下記に、『教員の養成・採用・研修の改善について~論点整理~』を再掲するとともに、当日資料から小中一貫教育制度整備にあたっての取組に関する資料を紹介します。(文責 小山宏之)

教員の養成・採用・研修の改善について~論点整理~(概要)から(抜粋および改編) (注)下記の表は今後の議論の参考資料であり、報告や提言のものではない

【養成・採用・研修の改善の視点】 ~教職生活全体を通じた職能成長を実現する環境作り 〈養成段階〉教員を高度専門職と位置づける改革の実現、学部・学科段階を「教員となる際に必要な基礎的・基盤的な学修」とし、教員免許状の取得に必要な最低取得単位数を増加させない。 〈採用段階〉教員養成課程における学修状況等の評価を積極的に活用、選考方法に一層の改善・工夫を求める。 〈研修段階〉多様な研修プログラムの準備、それらを継続的・発展的に受講できる環境の整備。	
1. 教員養成課程の改善 (1)教育課程の改善 〈学部・学科段階〉 ・学校段階間の接続・円滑な移行、教科横断的視点。 ・「教科専門」と「教科の指導法」の融合を実現する「教科内容構成科目」の開設 等 〈大学院段階〉 ・キャリア形成と資質向上の取り組みの中に、教職大学院、大学院段階の学びを明確に位置付ける。 ・教育委員会との更なる連携・協働 (2)認定制度の改善 ・定期的な質保障の仕組みの導入を検討。 ・教員養成課程を統括し、FDなど教員養成の質を高める取組を主導的に行う組織(全学教員養成管理運営センター(仮称))の設置について検討 等	2. 教員免許制度の改善 〈教員免許制度改革のバタンの検討〉 ・複数学校種の教員免許状、同一学校種の複数教科の教員免許状の取得 ・小学校において一つの教科の指導及び担任が可能な教員免許状 ・二種・専修免許状及び「高度専門免許状」(仮称)の取得
	3. 採用と研修の改善 ○教職大学院等進学者・修了者を対象とした取組の促進 ・採用選考において教職大学院等の教育機能や実績を勘案し、進学者・修了者を対象に、履修を評価した取組を推進(教職大学院修了者対象の特別選考) ○教職大学院等を活用した研修の高度化への取組を一層促進 ・教職大学院と教育委員会等が共同で開発した研修プログラムに基づき教職大学院が授業科目を開講し、教職大学院に派遣して教員の研修を実施 ○現職教員のための新たな教員免許状の取得に向けた取組の促進

これからの学校教育を担う教職員の在り方について(概要)から(抜粋および改編) ~平成26年11月6日中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会報告~

小中一貫教育制度の整備に当たっての取組

- 小中一貫教育制度の円滑な導入・運用に必要な免許制度:
・小学校教員免許状及び中学校教員免許状の併有を基本とする
- 経過措置等:
・当分の間、どちらか一方の免許状で相当する過程の指導を可能とする(小学校免許⇒小学校過程、中学校免許⇒中学校過程)
- 免許状併有促進のための環境整備:
・免許状取得要件上の工夫(教職経験等を勘案し、必要単位数を更に軽減する等)
・免許法認定講習の開設支援 など
- その他:
・中学校教員による小学校における専科指導が一層促進されるための措置の検討
・現行免許状での他校種における指導可能範囲の拡大の検討 など

まとめ(平成26年度内)

背景、課題、改革の方向性を踏まえつつ、教員免許制度の改革、教員養成の充実策、教員採用における工夫、教員研修の充実策についても検討

まとめ(平成27年夏頃)

シリーズ「人権に基づく性教育」～“性と生”について学ぶ～ (関口久志)

このシリーズでは、各分野の人権に基づく性教育の専門家をお招きして、その理論と実践を学習します。目的は性を幸せ・健康（ウェルビーイング）なものとするための教育力を身につけることです。対象は学生、本学関係教職員、一般教職員、一般の方々など性に関わるすべての人々です。次回のセミナーは以下のようになっていますので、ご参加をお待ちしています。

テーマ：母と子がいきいきと生活できる明日をめざして～「びーらぶ京都」の活動紹介

日 時：5月16日（土）10時～12時30分

内 容：DVを受けた女性と子どもたちへの支援について、模擬体験もしながら考える。

留学生と地域住民との交流プログラム



当プログラムは、留学生が中心となって企画し、留学生たちの母国を多くの人に知ってもらい、また地域の人々と留学生との交流の場ともなっています。

本年度最終となる第5回は、1月27日（火）に「タイのボクシング：ムエタイ」と題して、タイからの留学生であるロムソムサ・トーサクさんにお話し頂きました。ムエタイは、立ち技最強格闘技と言われ、その歴史は13世紀にさかのぼり、今ではタイの国技として体育の授業で習うこともあるそうです。試合前には、選手はリング上を回りながら祈りを捧げます。その間だけでなく、試合中もタイの民族音楽が流れ、得も言われぬ雰囲気があるようです。

次年度も開催しますので、ご参加をお待ちしています。



幼児教育専攻学生によるboard deco

附属教育実践センター機構棟内ホワイトボードに、幼児教育専攻の学生が、心を和ませてくれる、かわいい季節の張り絵をしてきています。



2月は豆まきをする動物たち。「鬼は外、福は内」と豆が飛び交っています。

3月は花と戯れる動物たち。春のメロディーが聞こえるようです。

貼り絵を見るだけで楽しい気分になりますね。

附属教育実践センター機構棟入り口正面にあります。

どうぞ、学生たちの力作を見に来館下さい。



スクールボランティアについて

本センターでは、公立学校での学生ボランティア活動を実地教育の一環として積極的に推進し、様々な事業等の紹介やサポート活動を行い、教職をめざす学生の実践的指導力の育成に大いに役立っています。詳細は、HPをご覧ください。

【学生に周知していただきたいこと】

- ◎ 学生が公立学校等でボランティア活動をする場合、必ず「学校ボランティア活動 学生登録カード」に必要事項を記入し、ボランティアオフィス又は教務・入試課実地教育グループへ提出して下さい。学外の活動でも「学生教育研究災害傷害保険」が適用されます。必要な場合には、「ボランティア証明書」を発行することが可能になります。
- ◎ ボランティアオフィスに来ると、様々な地域、時間帯、多様な学校ボランティアの紹介を受けられます。

教育支援センター

センター長（兼任）

教育実践連携部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門／就職・キャリア支援部門

実地教育部門（兼任）

モラル・人権意識向上教育部門

ボランティアオフィス 075-644-8336 (月・木 11時～14時、金 11時～15時) sien@

運動部活動指導者育成室 075-644-8143 (月9時～12時半、火9時～16時、水10時～12時半、木9時～12時) bukату@

事務担当：研究協力・附属学校支援課 研究協力・センター機構支援グループ kenshien@

TEL 075-644-8335、8118 (内線のみ) FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

